

遺伝子解析研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学 再生医療学 教授・下平 滋隆

私たちは「ネオ抗原由来のmRNAを導入した樹状細胞ワクチンの遺伝子発現解析」という遺伝子解析研究を実施しています。研究概要は以下のとおりです。

研究課題名	ネオ抗原由来のmRNAを導入した樹状細胞ワクチンの遺伝子発現解析
研究機関名	金沢医科大学 再生医療学
研究責任者	金沢医科大学 再生医療学 教授 下平 滋隆
研究期間	倫理審査委員会承認日 ~ 2029年3月
対象者	<p>本研究の対象者は、I489研究課題名「ネオ抗原由来のmRNAを導入した樹状細胞ワクチンの製造技術の開発」に参加された健常者および患者さんです。</p> <p>本研究への参加を望まれない方は、下記の問い合わせ先までご連絡を頂けますようお願い致します。なお、資料情報の使用等についてお断りになられても、不利益になることはありません。</p>
当該研究の意義・目的	<p>樹状細胞ワクチン療法は、国内外で有望ながん免疫細胞療法として期待され、有効性を評価する先進医療 B 申請の準備が進められています。広く患者さんに提供される再生医療等製品では、強力な抗原提示能を発揮する樹状細胞ワクチンの加工技術が必要です。また、がんゲノム診断の進歩により患者個々のがん細胞で生じる遺伝子変異を有する新生抗原(ネオ抗原)を導入した樹状細胞ワクチンは、高い抗腫瘍作用が期待されています。本研究では、強力な抗原提示能を発揮するネオ抗原由来の mRNA を導入した樹状細胞ワクチンの製造技術を確立し、遠方の患者さんに提供できる体制を整えます。</p>
方法および研究で使用する試料・情報について	<p>[研究の方法]</p> <p>ご参加いただきました先行研究 I489 で解析した基礎データを基に、患者個々のがん細胞で生じる遺伝子変異を有する新生抗原(ネオ抗原)を導入した樹状細胞ワクチン製造技術を確立するために本研究を行います。</p> <p>本研究では、ワクチンや原料となる末梢血中の細胞の遺伝子発現解析等の研究を実施し、優れた製造技術である事を科学的に証明します。また、フィルグラスチム投与後に作製された樹状細胞ワクチンの効能・持続性の評価を 製造技術に役立てるため、樹状細胞ワクチン療法を受けられる患者さんの末梢血単核球を用いた遺伝子発現解析を実施します。さらに、樹状細胞ワクチンの治療歴が有り、がん性胸腹水を認める患者さんの検体からは、高い抗腫瘍作用が期待されるネオ抗原を同定します。そして、ネオ抗原の遺伝子配列に応じた mRNA を作成します。これらの研究成果を通じてネオ抗原由来 mRNA を導入した樹状細胞ワクチンを確立し、製造および提供に必要な搬送試験を実施することで、遠方の患者さんに提供できる体制を構築します。</p> <p>この研究で得られたデータ等は、電子施錠施設内の外部とつながっていない PC に保管され、研究発表終了後は少なくとも 10 年間保管します。試料は、電子施錠施設内で、研究発表後少なくとも 5 年間保管します。データや試料は、その後適切に廃棄します。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。</p>
外部への資料・情報の提供	外部への提供はありません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。

利益相反について	本研究の研究者が発明者に含まれる特許権が有効に存続中です。将来、この特許権により本研究者が利益を得る可能性があります。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学 再生医療学 教授 下平 滋隆 住所:〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1 電話:076-286-2211(内線 25258)

作成日： 2026年1月6日